

幌延小中一貫校の建設に向けて検討しています！

現在、基本設計を進めている中で、より良い学校とするためにみなさまからのご意見を頂きたいアンケートを行います。

01.基本設計テーマ

～ 幌延の未来を担う子どもを育む持続可能な学校 ～

幌延町は国立公園であるサロベツ原野を有し、その「大平原」の中で学びや遊びを通して成長してきた子供たちが、いつもまでもふるさとに誇りを持ち続け、いつくしむ豊かなところと未来を創造する力を育む学校づくりを目指します。

02.実施方針



自立

「生き抜く力を育成する仕掛け」
自ら進んで学習に取り組む事が可能な学べる居場所を校内にちりばめ、ICTを活用できる設備環境を構築し、学びへの意欲が高まる学習環境の仕掛けや場をつくります。



尊重

「多様な個性やニーズに対応」
学年、習熟度、身体等の違いを認め違いを大切に、多様な対話の場を提供することで新たな気づきと挑戦する心を育む場をつくります。



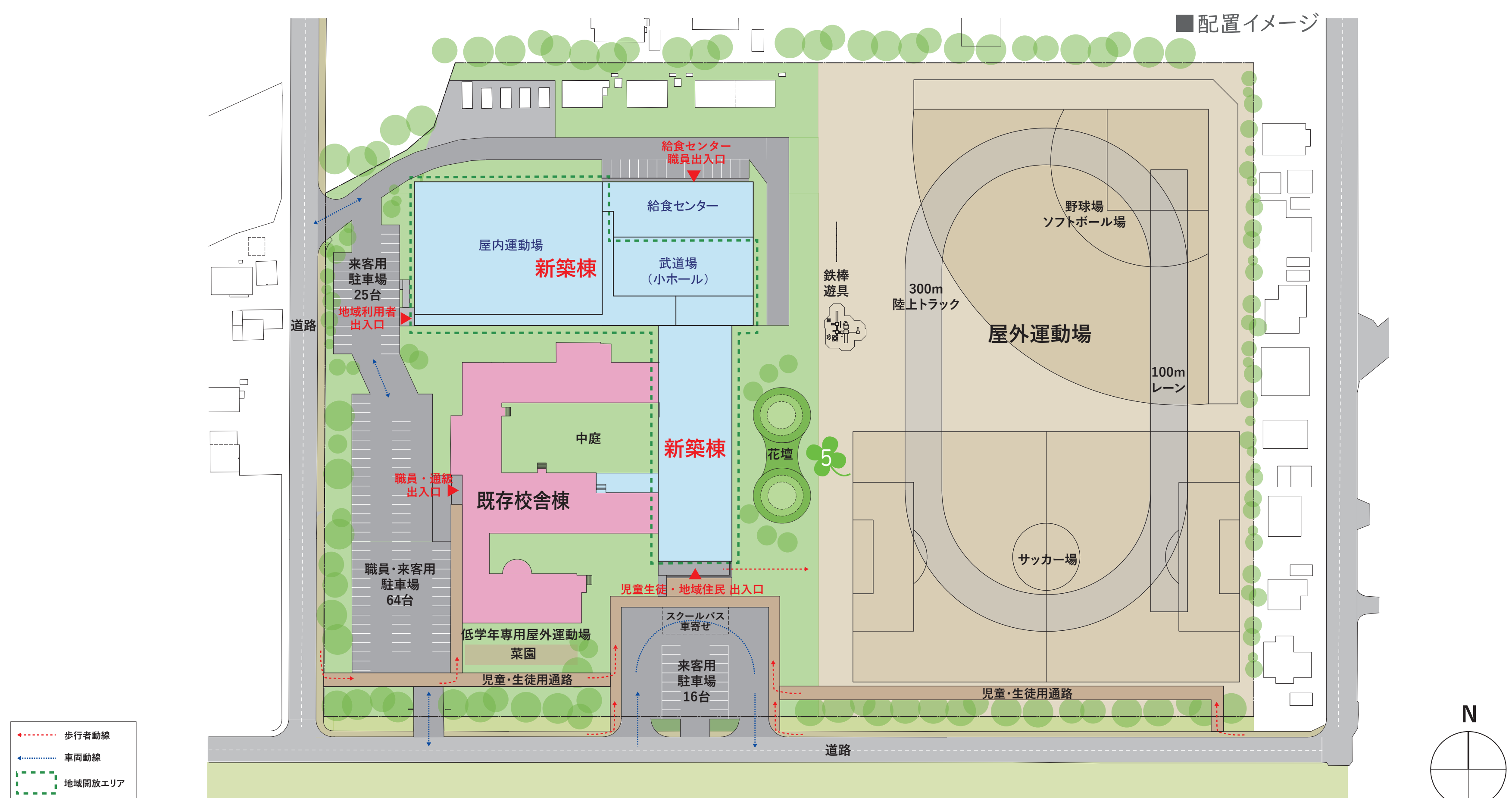
協働

「“幌延”に対する誇りと愛いを育む」
地域と連携した教育環境づくりを進め、幌延で過ごすかけがえのない記憶として刻まれる学びの場をつくります。

03.配置計画

地域の「家」となるような学校

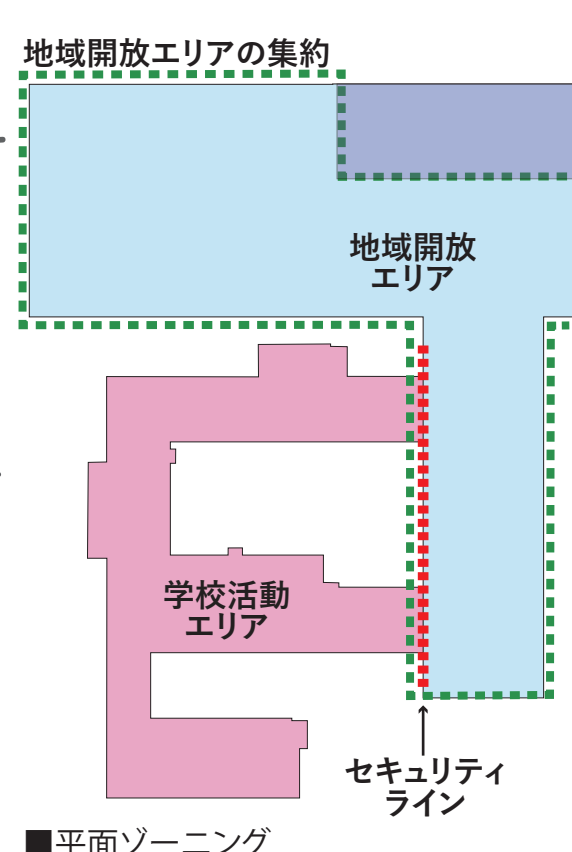
新しい学校は、地域が支え、見守り、子どもたちを育む学校とするために、長年親しまれた既存校舎を活かし、子ども達が地域の人たちと親密に交流できる場となり、子ども達がのびのびと活動できる「家」のような学びの場とします。



■配置イメージ
✿:別パネルを参照

■地域開放エリアの集約

新築棟に、「地域開放エリア」を集約することでコミュニティ・スクール等での地域住民の利便性に配慮し、地域に開かれ、地域住民も利用しやすい施設とします。



■防犯面に配慮

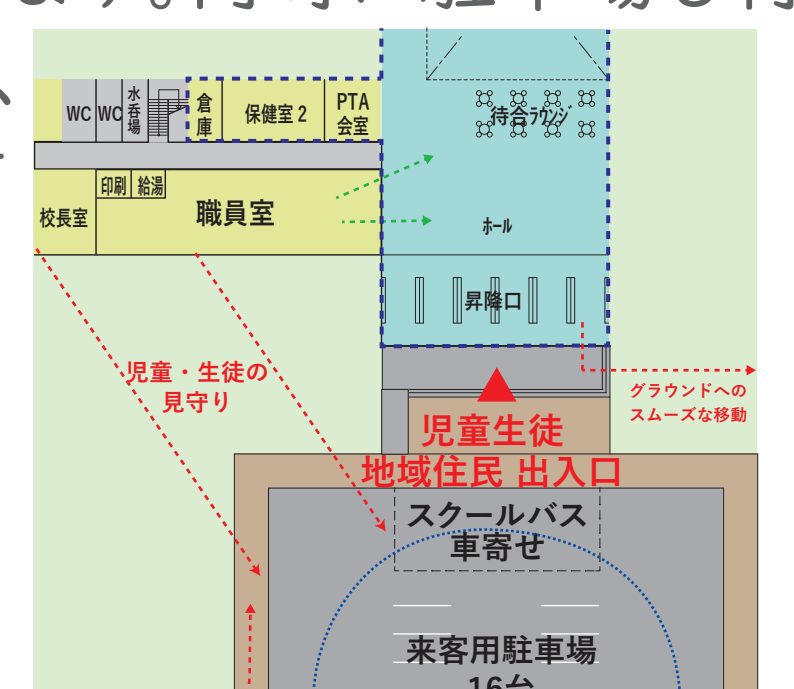
「学校活動エリア」と「地域開放エリア」を明確に分離し、安心・安全な学校としてのセキュリティ、管理運営のしやすさに配慮したゾーニングを行います。

■昇降口

昇降口は新築棟南側に設置し、グラウンドへの動線をスムーズにする。また、職員室は昇降口の近くに配置し、児童・生徒・来客の出入に目が届く配置とします。

■出入口の分散化

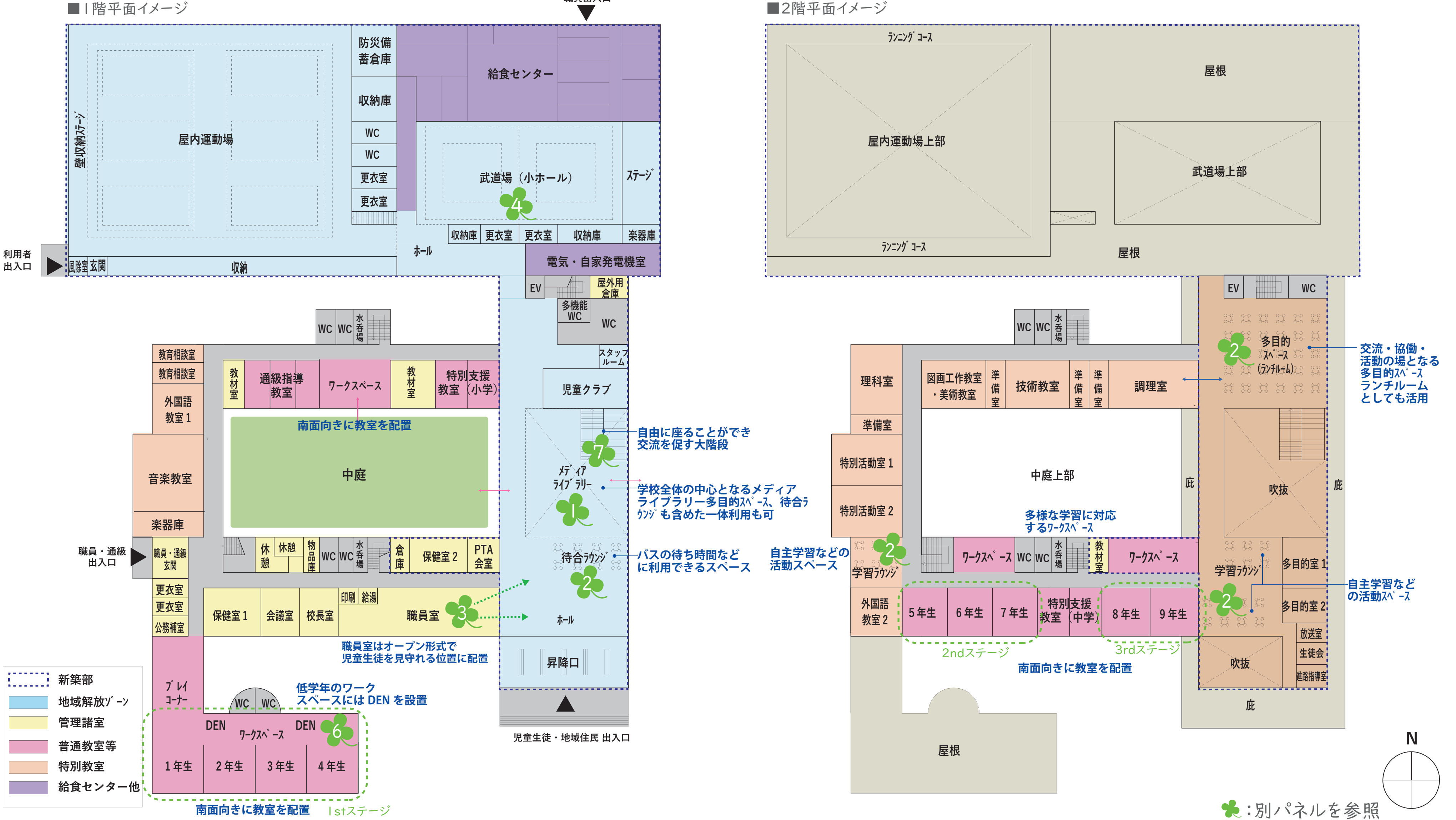
児童・生徒(来客・地域開放時)、職員、地域利用の出入口を分散し、セキュリティに対応します。同時に駐車場も利用別に分散し、生徒児童の歩車分離やスクールバスの巡回スペースを確保します。



04.平面計画

回遊でき新築棟を中心につながる学校

新築棟をグラウンド側に南北に配置することにより、各フロアを回遊でき、交流を促す動線をつくります。新築部分に大きな吹抜け空間を設置し、上下の空間をつなげ、学校全体が一体となるようなプランとすることで学年を超えた交流が生まれる学びの場とします。

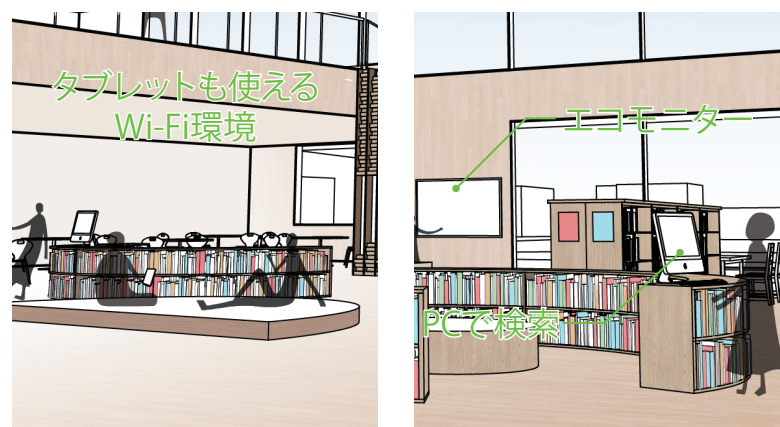


児童・生徒の成長を感じる学びの場

普通教室は、南側に面しており、義務教育学校における学年の区切りである、1stステージ(1～4年生)、2ndステージ(5～7年生)、3rdステージ(8、9年生)にまとめてプランニングします。

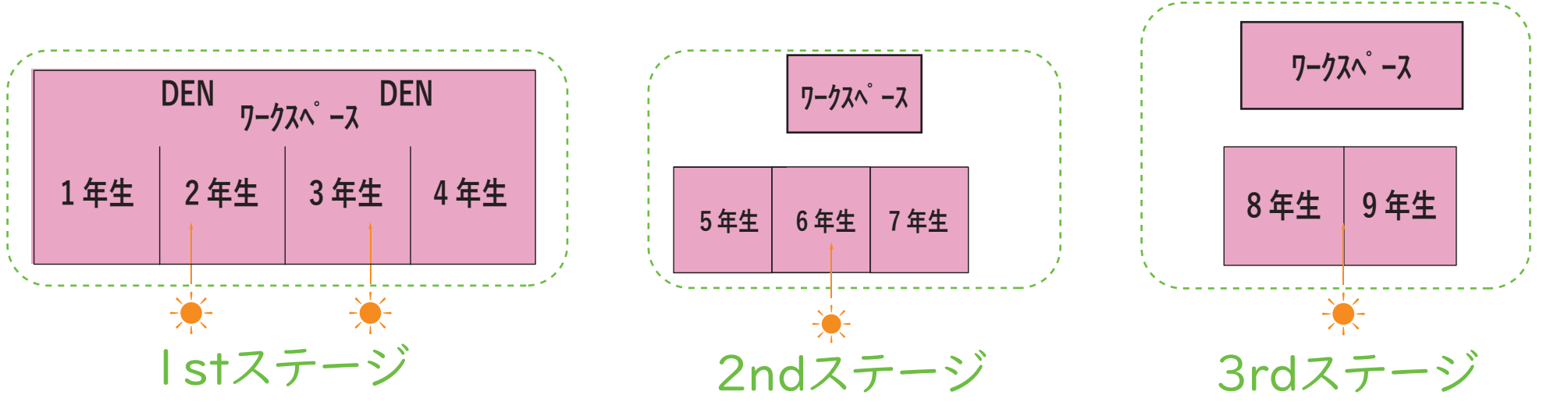
ICTの活用

日常的にICTを活用できるように無線LANによる通信設備を設置し、どこでも学べ、学びの意欲が高まる学習環境のつくります。



柔軟で自主性を伸ばす学びの場

少人数学習や習熟度別学習を基本に活用できるよう、普通教室前にワークスペースを設けます。また、1stステージには、プレイコーナーやDENを設け、2ndステージ、3rdステージには学習ラウンジを配置し多様な場を設け、自分の居場所や自ら学ぶ意欲や創造力を高める学習環境等の充実を図ります。



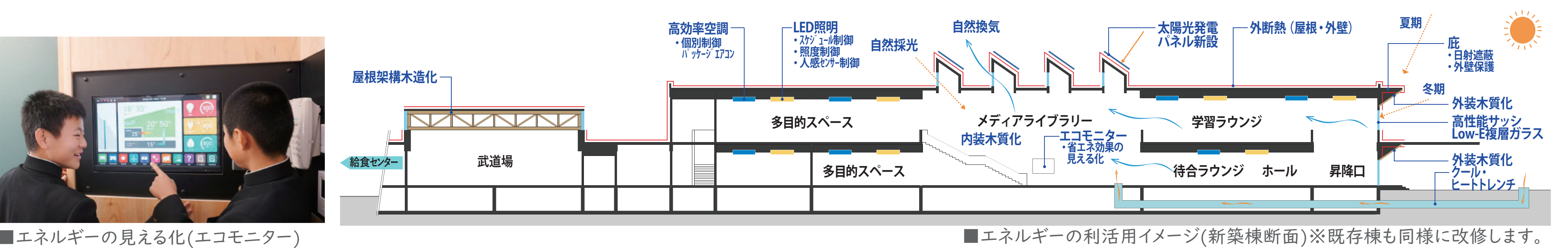
05.省エネルギー化

学びや地域交流にもなるカーボンニュートラル

自然エネルギーを活用する「パッシブ技術」と、必要エネルギーを削減する「アクティブ技術」に加え、エネルギーの効率的な運用を図る「エネルギーマネジメントシステム(BEMS)」を総合的に組み合わせた建築計画を行います。

学びとなるエネルギーマネジメント

エネルギー状況がリアルタイムで見えることで、子どもたちが勉強し、自ら省エネ方法を考察・実践し、省エネに取り組める環境づくりや、再エネ、省エネ技術は地域住民も体感できるように検討します。



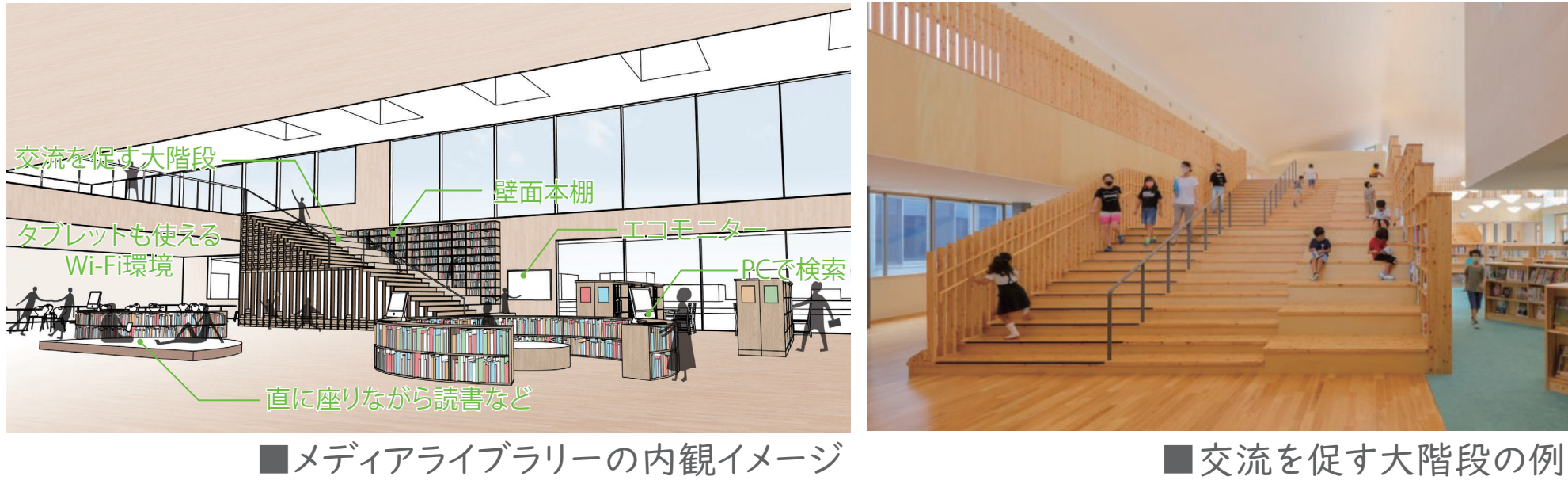
■エネルギーの見える化(エコモニター)

■エネルギーの利活用イメージ(新築棟断面)※既存棟も同様に改修します。

06.詳細イメージ

1 メディアライブラリー

皆が自由に利用できるメディアライブラリーは学校の中心に配置し、座ることができ、交流を促し、象徴的となる大階段を設けます。またメディアライブラリーを中心に幌延みらい学室を設置して、地域住民との交流が図れる場とします。1階、2階を吹抜けとして、縦のつながりを感じられる空間とします。



3 教室・職員室

教室の間仕切りは習熟度毎に開閉可能なものやガラスの間仕切りなど、成長に応じたものを採用するように検討します。職員室は壁をなくすことで、いつでも児童・生徒を見守ることができ、児童・生徒も入りやすく、教職員とのコミュニケーションが図りやすい職員室を提案します。



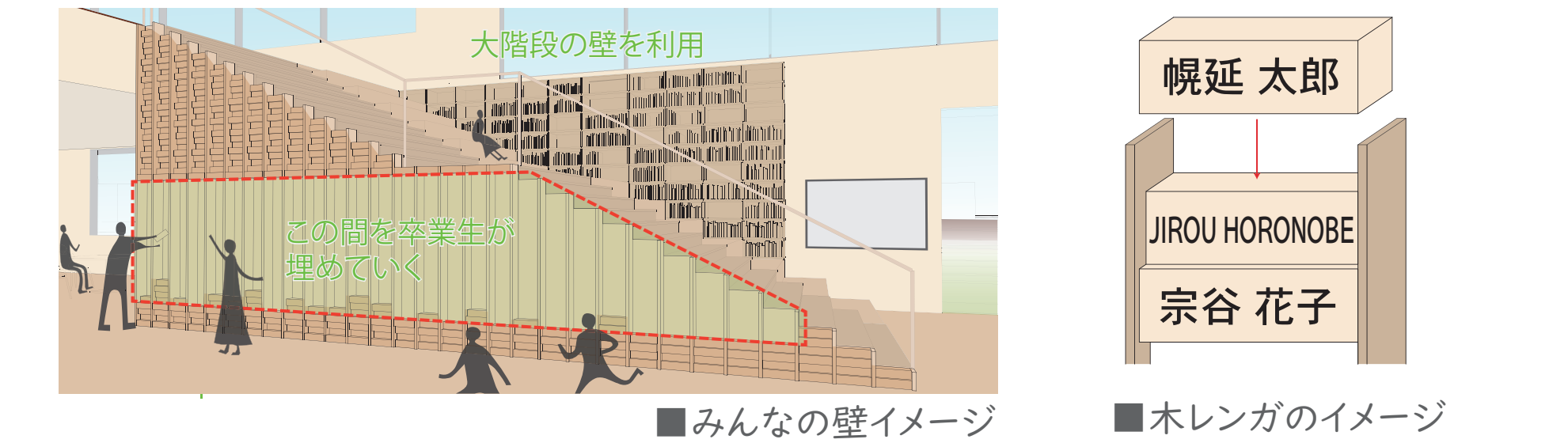
5 ほろのべの庭

新築棟東側に庭を設け、住民と児童・生徒がともに協働する場とします。また、学校を卒業する時に植樹ができるスペースを設けることで、未来につなぐ仕組みを検討します。



7 みんなの壁

校舎建設時に大階段の壁に木レンガをはめる木枠を設置します。卒業記念として木レンガに名前を刻み卒業生が埋めていきます。



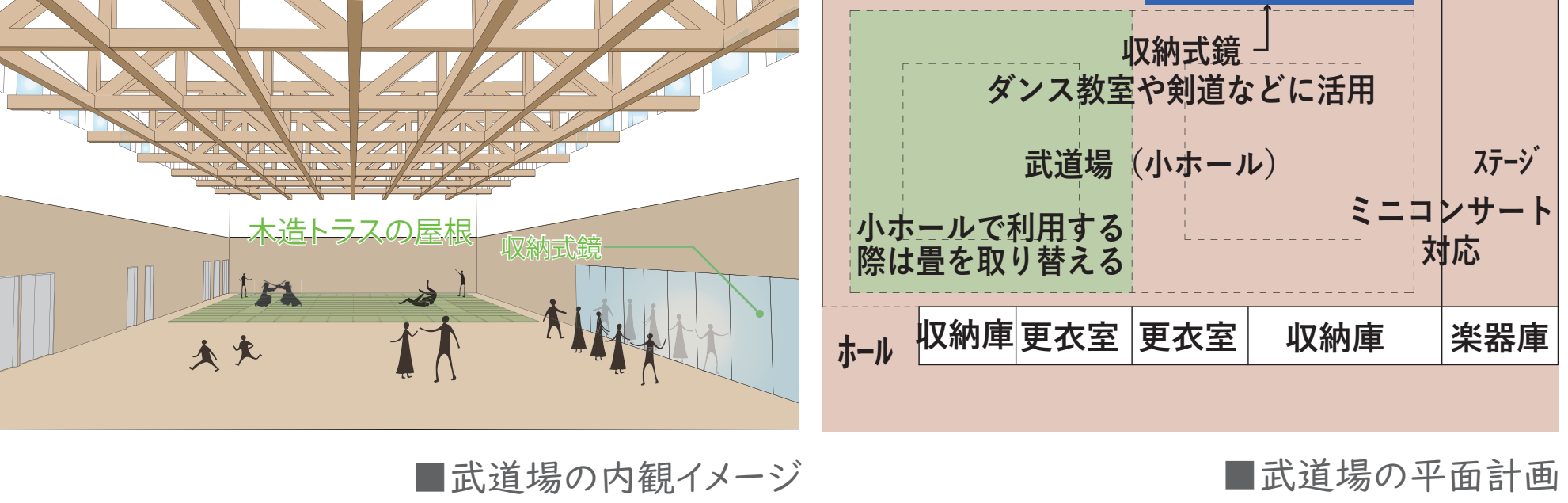
2 学習ラウンジ

3rdステージ(8、9年生)には南側に学習ラウンジを配置し多様な場を設け、自分の居場所や自ら学ぶ意欲や創造力を高める学習環境等の充実を図ります。



4 武道場

武道場は、小ホールとしても活用することで、地域のスポーツ少年団の剣道やダンス教室、ステージを設置してミニコンサートなど、地域のスポーツや文化の振興につながるものとします。屋内運動場も同様に考え、出入口も専用に設けます。



6 DEN

1stステージ(1～4年生)エリアには、木材を使用してDEN(小スペース)を作り、その時々居場所をつくります。屋内でも子ども達が楽しむことができ、木育にも活用できる空間をつくることを検討します。



校舎全体を木質化

各教室や自然に触れる部分の内装材や家具等は積極的に木質化します。外壁は、庇などで直接風雨にさらされないような場所について、木外装材の採用を検討します。木材は道内産の木材を使用します。



アンケートのご回答ぜひお願いいたします！